

～ WITH コロナ時代に ～

いきなりエイズ？

2020年1月に、新型コロナウイルス感染症患者が国内で初めて報告され、その後各都道府県で徐々に感染者が増加し、保健所がコロナ感染に日々費やすこととなりました。それから約1年が経とうとしていますが、その間の新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、各保健所における「エイズ無料検査」や「エイズ無料相談」を休止せざるを得ない状況となった地域も多く、HIV感染ではなく、『いきなりエイズ発症』というケースが増えたという記事を目にしました。

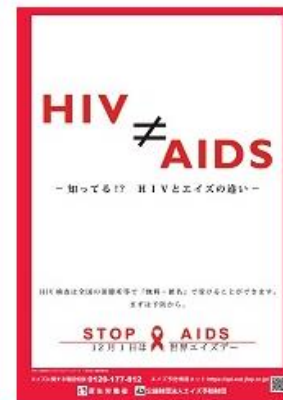
HIV感染は、早期に発見できれば投薬治療で発症を抑えることができますが、発症してしまっただけからの治療は難しくなり、その結果、エイズ発症後にHIV感染を知る「いきなりエイズ」の患者が増えているとのこと。この「いきなりエイズ」は、コロナ禍前から増加傾向にあったそうですが、コロナ禍により、検査・相談を受けたくてもコロナ感染が怖くて躊躇してしまう当事者の方々も多いのが要因の一つのようです。

HIV感染症の初期症状では、インフルエンザに似た発熱・咽頭痛・倦怠感・関節痛等の症状が出ることがあります。新型コロナウイルス感染症も同様の症状が現れるため、当事者側として、「コロナなのか？」「HIVに感染してしまったか？」と、より一層の不安に陥ることとなります。いずれにしても、早期発見が重要な鍵となります。

コロナ禍において、人と人との繋がりが希薄になってしまった現在ではありますが、同時に「人と人との繋がりの大切さ」を実感した1年だったのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染症の終息にはまだまだ時間を要します。以前のように街頭キャンペーンも無料相談会開催にも限界があります。そのため、一人一人が、HIV感染症について正しく理解することで、早期発見・早期治療につなげられるよう努めていかなければならないのではないのでしょうか。

世界エイズデー

世界保健機関（WHO）が、1988年に世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12月1日を『世界エイズデー』と決めました。例年、各都道府県、保健所を設置する市及び特別区において、関係機関等と連携し、エイズに関する正しい知識の啓発活動を目的に、街頭キャンペーン等実施しておりますが、この度の新型コロナ感染拡大防止の観点からオンラインによるイベントのライブ配信や、ポスターによる啓発、厚生労働省のウェブサイトにおける啓発等が多く見受けられました。



今年は、「知ってる?! HIVとエイズの違い」をテーマに様々なイベントが行われました。医学・治療の進歩により、感染の早期把握、治療の早期開始によりエイズの発症を防ぐことができ、早期発見により、他者への感染リスクも低下します。しかしながら、それが正しい情報として伝わっておらず、まだまだ「原因不明」「治療法が無い」と誤った認識のまま差別、偏見へと繋がっているのが現状です。そのため、【「知ってる!？」という問いかけを通じて、一人でも多くの方がHIV/エイズを自分のこととして考え、「HIVとエイズの違い」をはじめ、検査や治療、支援などHIV/エイズに関する知識を身につけるための契機とする。正しい知識の普及を通じ、HIV検査の受検促進や差別・偏見の解消につなげていく。】という目的で、今回の「知ってる?! HIVとエイズの違い」というテーマになったようです。（厚生労働省HPより）

HIV/エイズは、世界エイズデーの期間のみに焦点が当たりつつありますが、「知ってる!？」と問いかけることで、分からなければ知ろうとする、とても良いきっかけ・働きかけとなるテーマだと感じました。我々支援者側としても、改めて基本に戻って、自分に「知ってる!？」と問いかける、エイズに関する正しい知識を身につけるための契機としてみてはどうでしょうか。